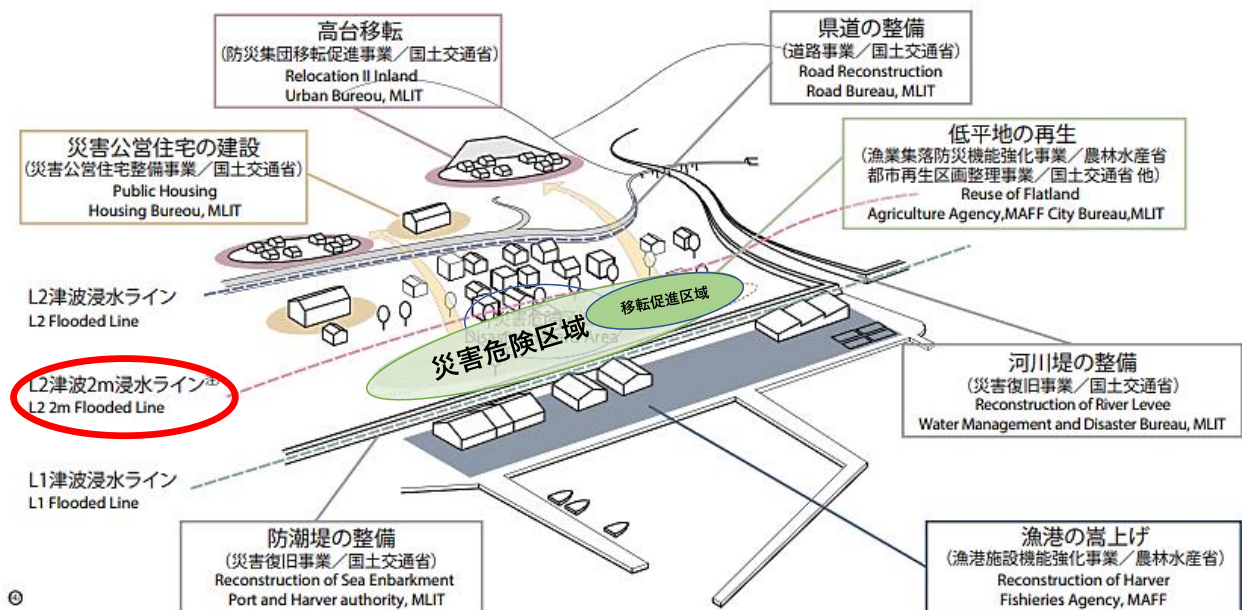


4月23日（土） 10：30～12：30オンライン

震災から11年 沿岸地域の復興まちづくりの現状と課題（その1） ～南三陸・石巻の今をどう見るか～

東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター
小川静治

東日本大震災における復興まちづくり



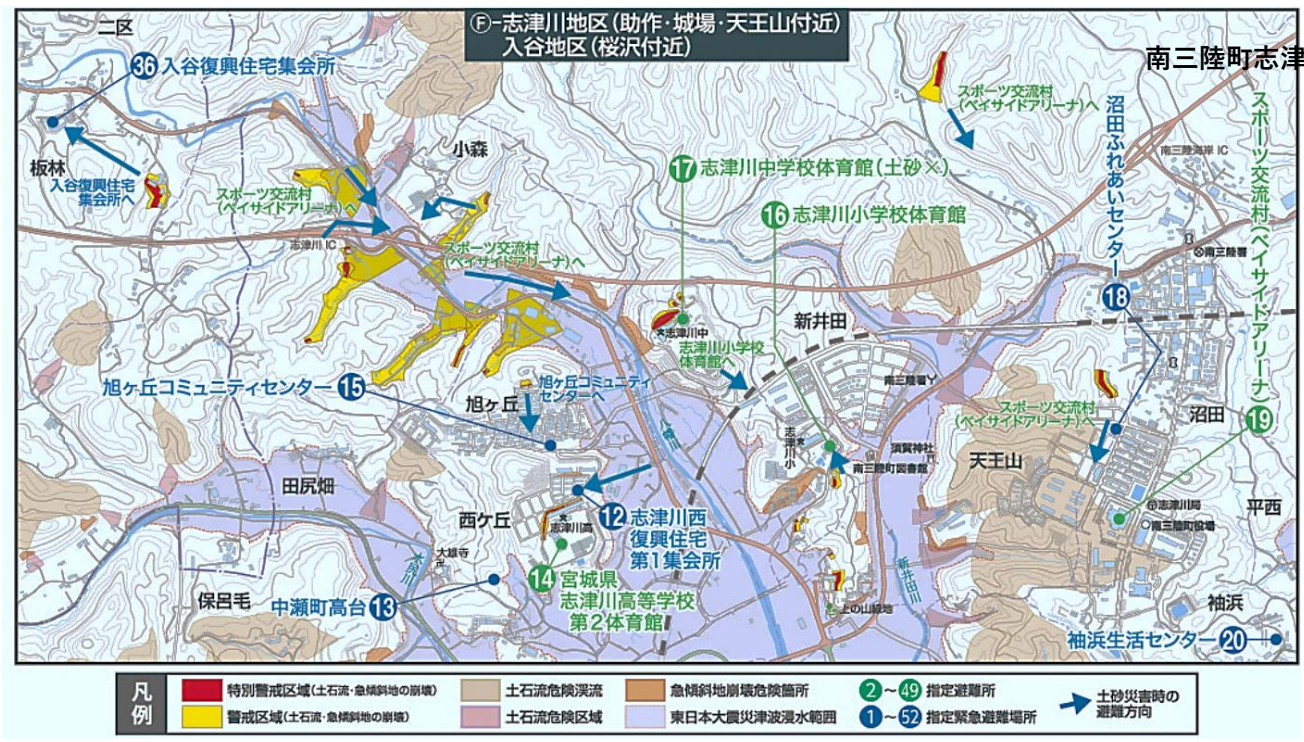
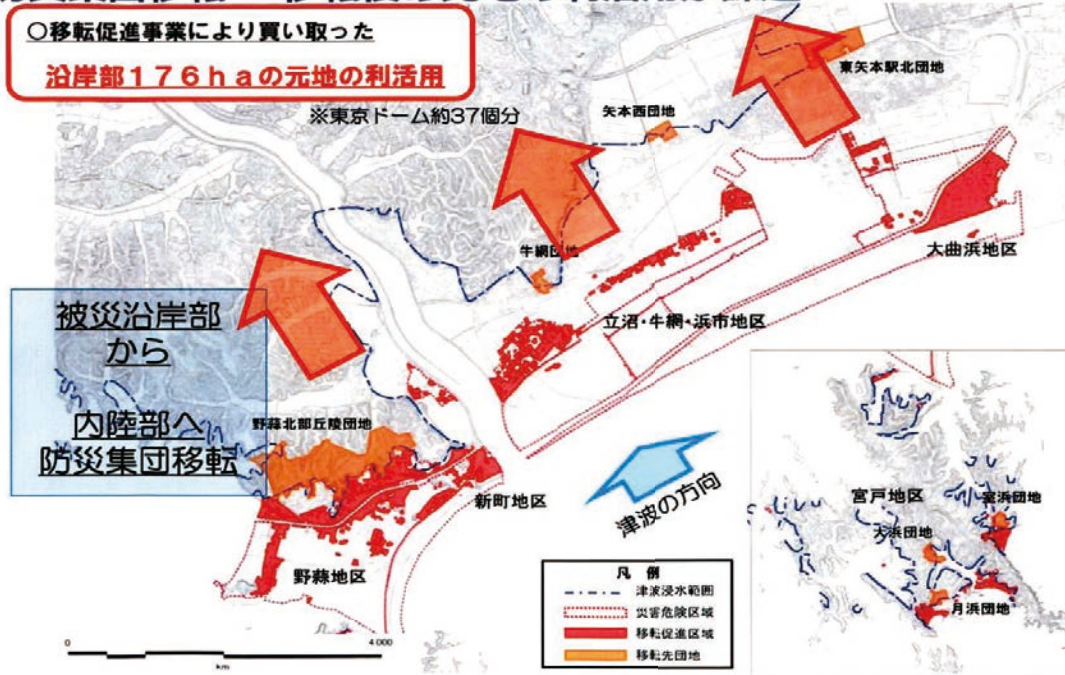
出展：釜石復興の軌跡<資料編> 小野田泰明 加工小川



防災集団移転 ～移転後の元地の利活用が課題～

東松島市の例

○移転促進事業により買い取った
沿岸部176haの元地の利活用



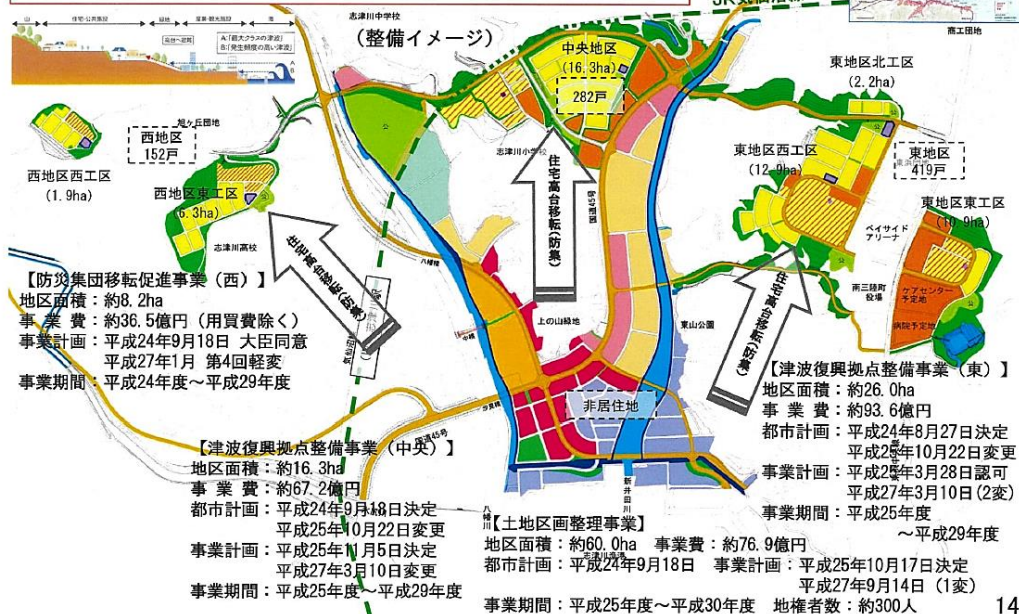
東日本大震災津波浸水範囲≒災害危険区域指定地 (南三陸町役場総務課危機対策係)



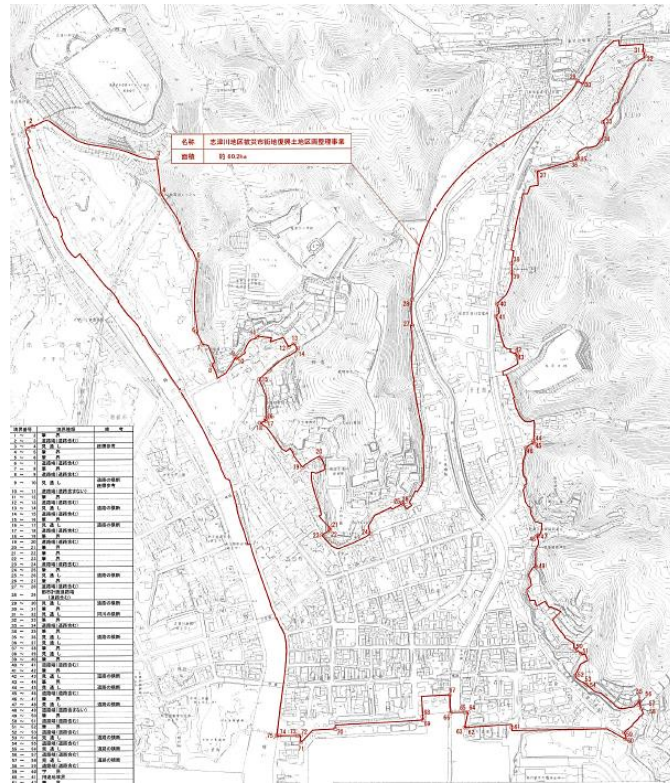
14 南三陸町 志津川地区

- 従前のコミュニティに配慮し、3箇所の高台住宅地を計画
- 公共施設（町役場・町立病院等）を高台に移転
- 低地部は観光・交流拠点、商業・水産業・企業誘致ゾーンとして活用

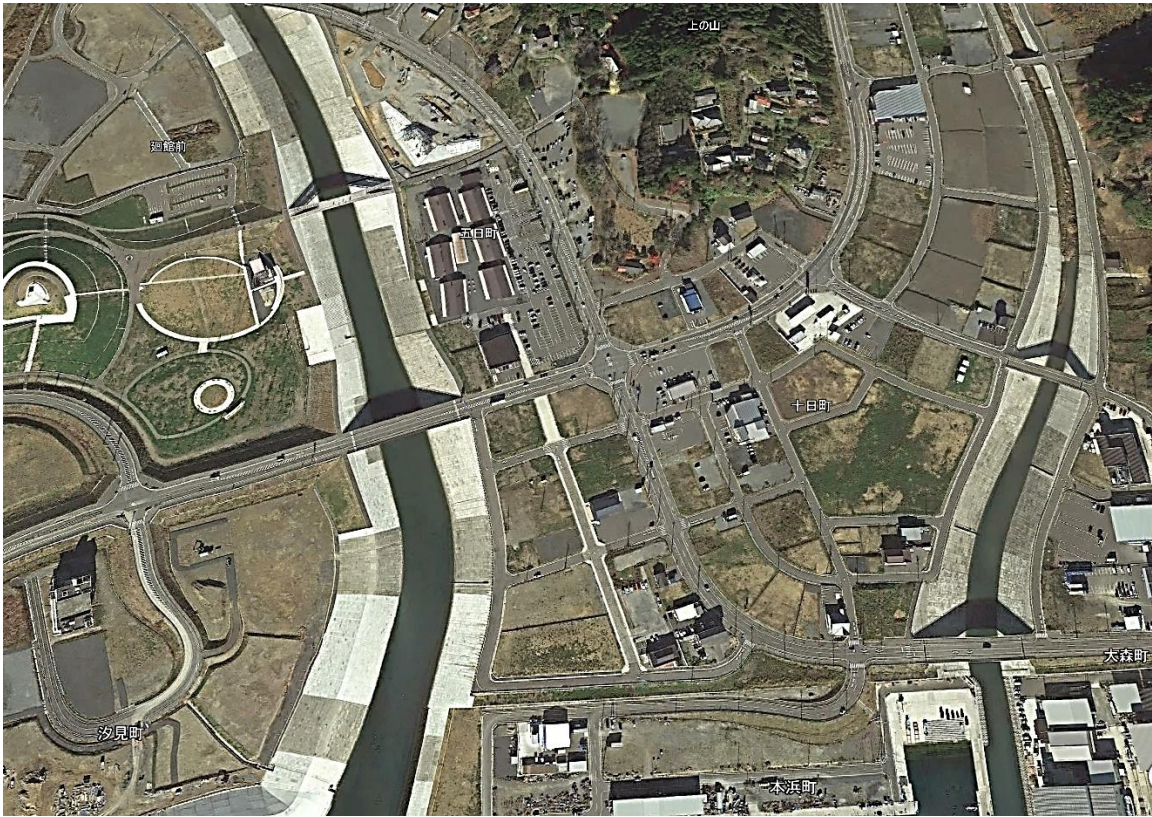
(位置図)



志津川地区土地区画整理事業区域



出典：株式会社 南三陸まちづくり未来HP



共同利用街区に立地した大型商業施設



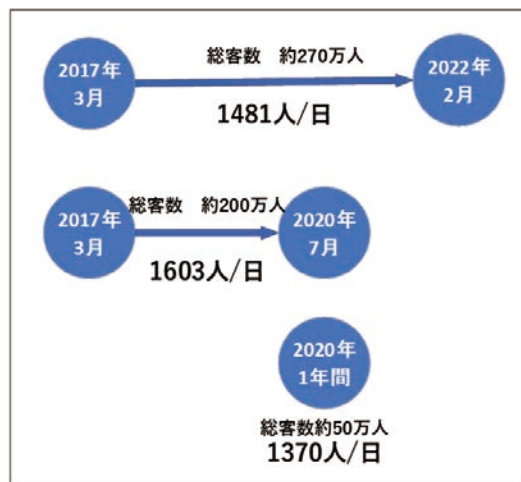
DZ
コンビニの平均数値、2021年 MJ

さんさん商店街の建築コストと他事例比較			
	整備費 (億円)	延床面積 (坪)	坪当整備費 (万円)
さんさん商店街	6.1	854	71.4
ハマレ歌津	1.6	204	78.4
参考			
20年度宮城県の住宅新築工事単価			61.5
スーパーマーケットの 新築工事単価例	300坪SM	500	44前後
	500坪SM	900	40前後
注1) さんさん商店街・ハマレ歌津の数値は「南三陸町まちなか再生計画」による			
注2) 宮城県の住宅新築工事単価は「被災三県の住宅復興に関する実態把握調査」に」			
注3) スーパーマーケットの新築工事単価はA社の例			

平均客単価 (単位円、カッコ内は増減率%)			既存店売上高増減率 (単位%、カッコ内は前年度ポイント差)		
順位	社名	平均客単価	順位	社名	増減率
1	ローソン	740(5.4)	1	セブン-イレブン・ ジャパン	▲2.4(▲2.6)
2	セブン-イレブン・ ジャパン	707(8.1)	2	ミニストップ	▲5.2(▲5.8)
3	ファミリーマート *	665(9.0)	3	ローソン	▲7.3(▲7.4)
4	ポプラ	617(7.9)	4	ファミリーマート *	▲7.7(▲7.8)
5	ミニストップ	604(7.1)	5	ポプラ	▲12.8(▲11.8)
6	JR東日本クロス カンパニー	376(1.6)	6	JR東日本クロス カンパニー	▲22.3(▲20.0)

1店当たりの1日の平均来店客数 (単位人、カッコ内は増減率%)			1店あたり平均日販 (単位万円、カッコ内は増減率%)		
順位	社名	平均来店客数	順位	社名	平均日販
1	JR東日本クロス カンパニー	1,045(▲31.6)	1	セブン-イレブン・ ジャパン	64.2(▲2.1)
2	セブン-イレブン・ ジャパン	908(▲9.7)	2	ファミリーマート *	49.3(▲6.6)
3	ファミリーマート *	740(▲14.5)	3	ローソン	48.6(▲9.2)
4	ミニストップ	670(▲11.4)	4	ミニストップ	40.5(▲4.9)
5	ローソン	657(▲13.8)	5	JR東日本クロス カンパニー	39.9(▲29.5)
6	ポプラ	441(▲19.4)	6	ポプラ	27.2(▲13.1)

さんさん商店街客数変化



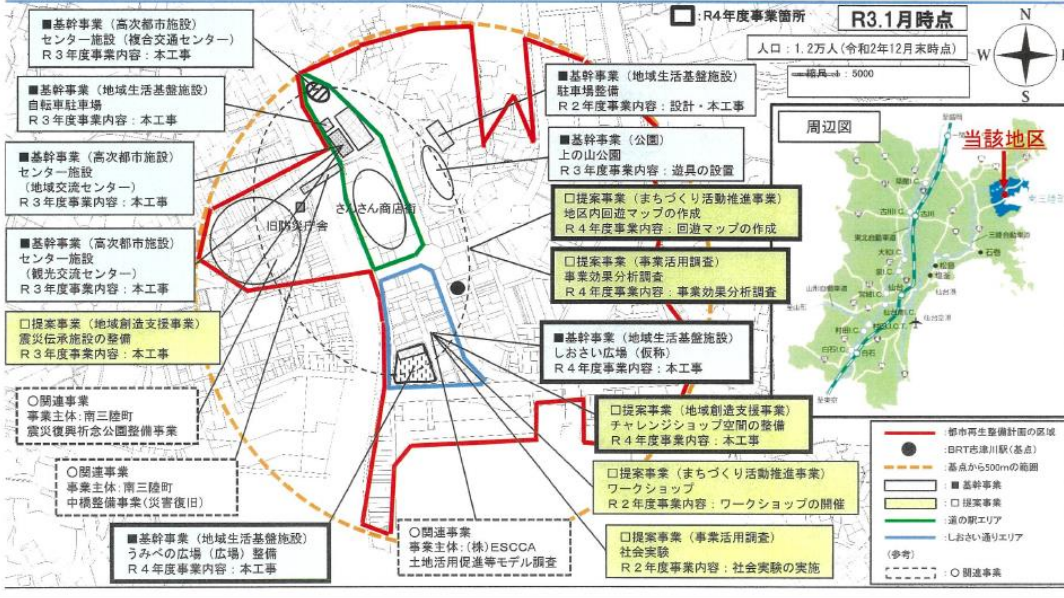
ハマレ歌津

2018年度	424人/日
2021年度 (～12月)	291人/日

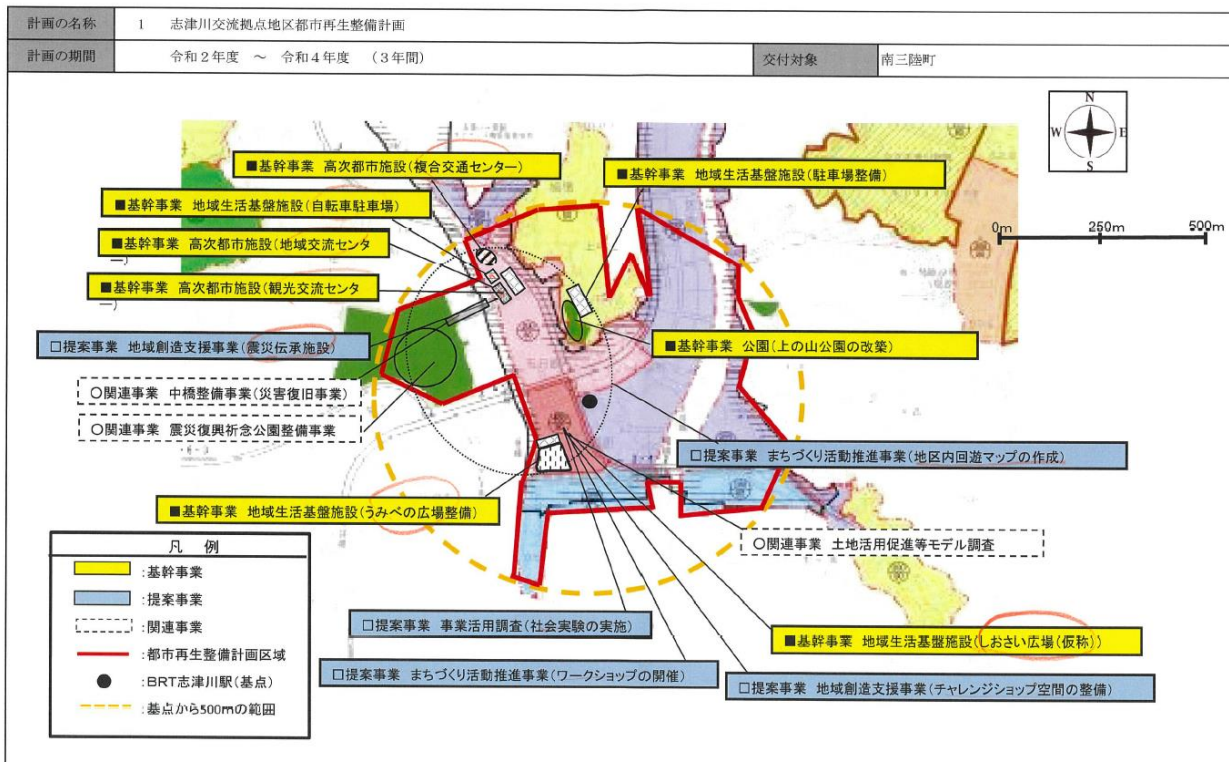
志津川交流拠点地区都市再生整備計画事業(宮城県南三陸町)

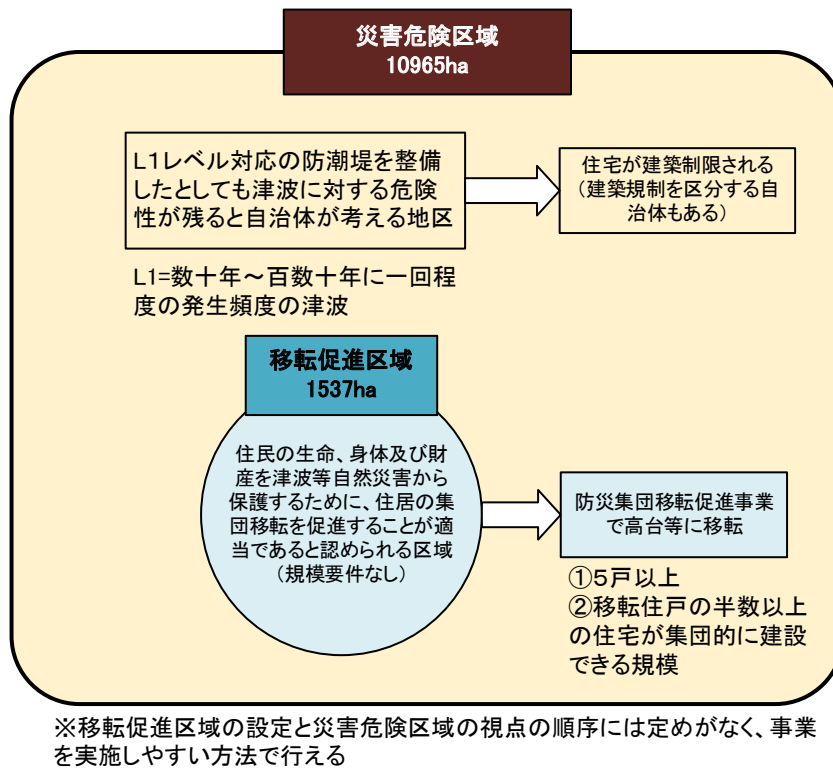
R4年度ver. [経過措置]

- ◆事業概要: 志津川市街地に「さんさん商店街」及び「震災伝承施設」を含んだ「道の駅」を整備するとともに、隣接する「しおさい通り」を町民が潤える空間として再構築し、さらに周辺施設との回遊性を高めることで町内外のコミュニケーションが生まれる魅力ある交流拠点を形成する。
- ◆事業主体: 南三陸町 ◆面積: 46.8ha ◆交付期間: 令和2年度～令和4年度
- ◆全体事業費: 1,767百万円 ◆交付対象事業費: 1,757百万円(国費:522百万円) ◆国費率: 29.7%(都市再生整備計画関連)



(参考図面) 市街地整備





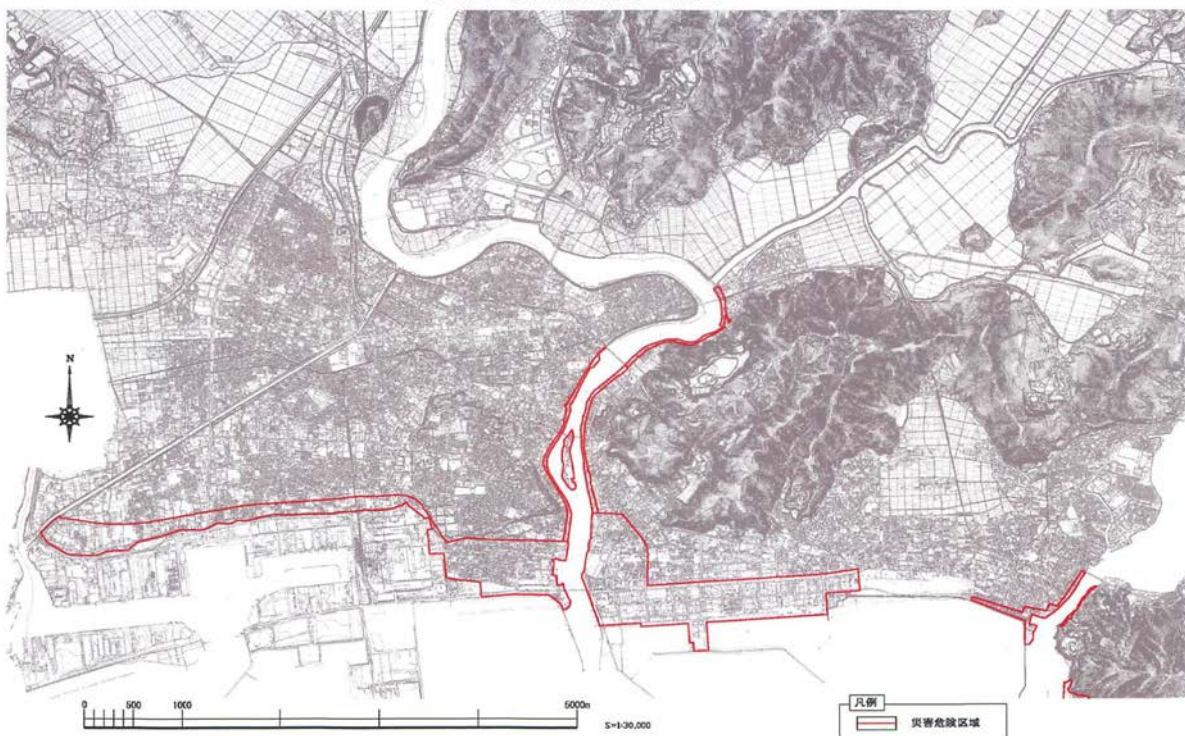
各自治体における災害危険区域の設定

		区域基準		
		シミュレーション	今次津波浸水範囲	
浸水深基準	ゾーン区分なし	2m	<p style="text-align: center;">タイプA</p> 釜石市（半島部）・南三陸町・塩釜市 七ヶ浜町・仙台市・名取市・亶理町	<p style="text-align: center;">タイプE</p> 新地町・相馬市・南相馬市・浪江町 檜葉町
		0～0.5m	<p style="text-align: center;">タイプB</p> 大槌町	<p style="text-align: center;">タイプF</p> 石巻市（半島部）・陸前高田市
	ゾーン区分あり	防災施設	<p style="text-align: center;">タイプC</p> 野田村・石巻市（市街地）	
		0～1m	<p style="text-align: center;">タイプD</p> 宮古市・山田町・釜石市（市街地）・ 気仙沼市・女川町・東松島市・岩沼市 山元町	<p style="text-align: center;">タイプG</p> 大船渡市・いわき市

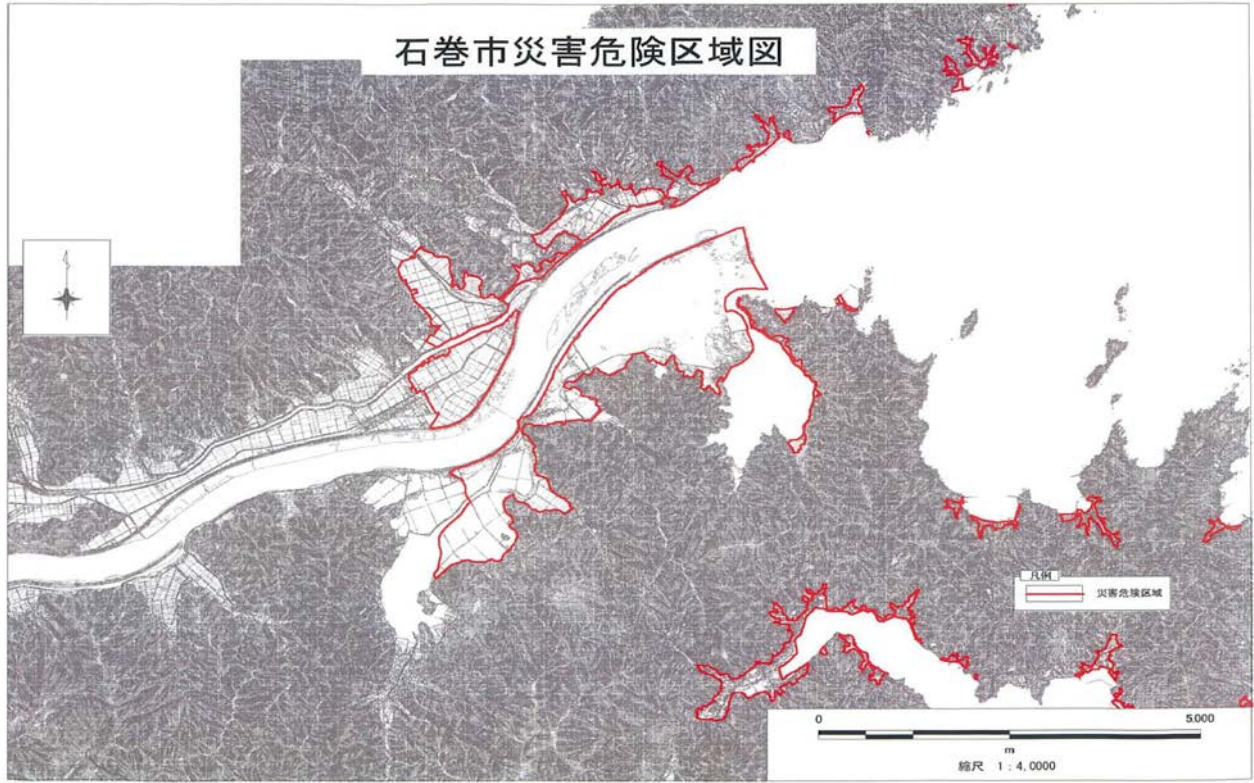
タイプ	内容
A	防潮堤整備後の危険性を考慮するためシミュレーションに基づき、かつ、木造建築物の全壊率が急激に上がるとされている 2m以上の浸水が想定される区域を指定 。比較的區域を狭く設定している。
B	シミュレーション基準で町独自の危険性の判断基準である 0.5m以上の浸水 が想定されている区域を指定。
C	防災施設を整備して市街地を守るという計画のもと二線堤や三線堤の機能を有する防災施設あるいは都市施設を整備することによって、結果的に、シミュレーション上、最大級の津波がきてても完全に市街地への浸水が止まることとなったため、その 防災施設から海側を危険区域 に定めた区域
D	シミュレーション上 浸水が想定される区域全域、もしくは想定浸水深1m以上 を基準として区域を指定。(タイプAと比較して広く定めている)
E	今次津波を基準として、2m以上浸水した区域、又は家屋が流失した区域 を対象として指定。
F	今次津波の浸水域全域 を対象に指定
G	基本的にタイプFと同様だが、 ゾーン区分 をしている点、及び指定経緯が異なる

出展：「東日本大震災後の災害危険区域の指定に関する研究」2015 松本英里・姥浦道生（都市計画論文集Vol.50 No.3 加工：小川

石巻市災害危険区域図

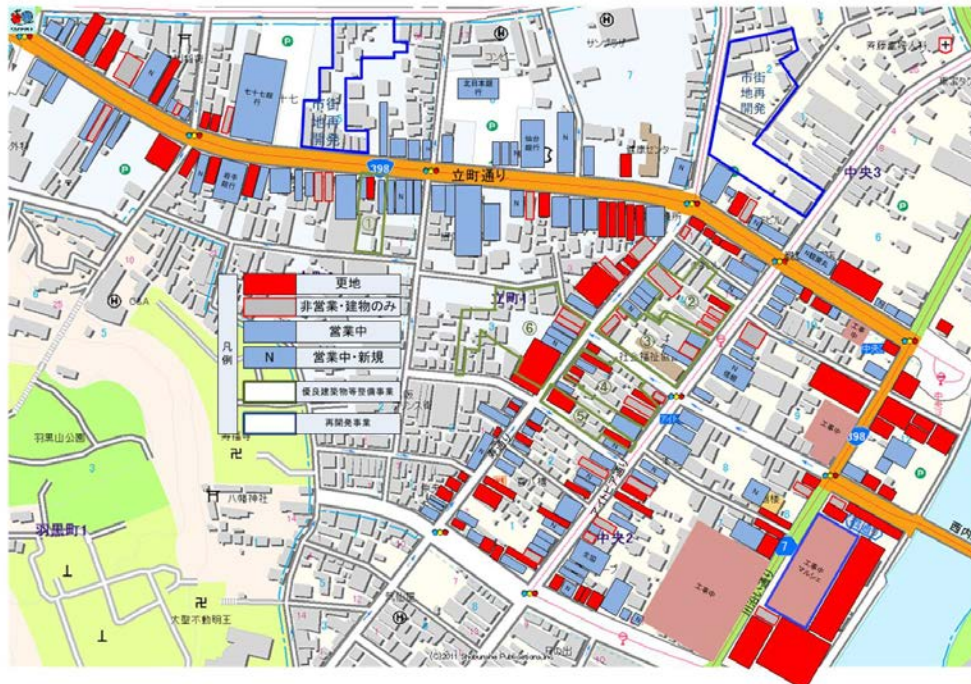


石巻市災害危険区域図



石巻中心商店街 復興状況

2017年4月26日調べ「石巻復興計画」収録



○立町～中央(市街地再開発等、かわまち交流拠点)

